

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1405
施設名	駒井町みんなの家
施設所在地	狛江市駒井町3-36-1
法人名	社会福祉法人純生喜伯会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

光 マグネットブロック遊びを通じて太陽の光に気付こう（全クラス）

<テーマの設定理由>

・園庭遊びで園児が自分達の影の形を見合って、形を変えるのを楽しんでいる様子が見られた。その際に保育者から太陽の光のことを伝え、他の子も誘って巻き込んで楽しむ姿が見られた。 ・マグネットブロックは以前から園にあり人気の玩具であったが、太陽の光がより反射するものを用意することで、普段のマグネットブロック遊びから光の気付きを多くの子が発見できるのではないかと考え活動に取り入れた。
--

2. 活動スケジュール

令和6年1月20日～1月28日 新しいマグネットブロック（マグキング）を自由遊びの玩具として導入し、太陽光の入る窓際にコーナーを設ける事で子どもたちがどのような遊びの発展を見せるか観察する。
--

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・マグキング マグネット 晴れの日室内自由遊びで窓際にコーナーを設定する。

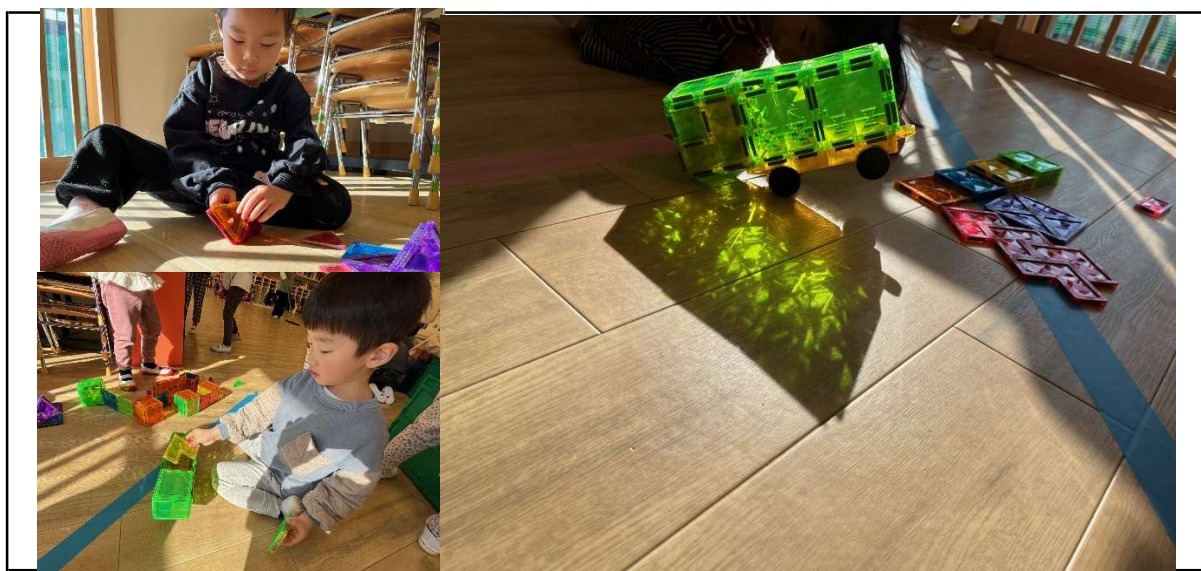
4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・ マグビルドで遊びたい子が集まり、自由に遊びを始める。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

遊びの中で今まで園にあったマグネットブロックと同じようにお家などの好きな形を作る子がいる中で、光の反射で床にきれいな色が映る事に気付いた園児が多く見られた。車を作るのに夢中になっていた子も手を止めてマグビルドを片手に床や自分の服に光が映るのを楽しむ子や、できた車から床に光が反射する様子を覗き込むように夢中になって見る子もあり、周りの子に「きれいだね!」と声を掛け合い楽しむ様子が見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

マグビルドで遊ぶ際、年長の子は光に気付いて遊ぶことよりも自分たちで作りたい大作を作るのに夢中であった一方、年少の子の方が一人遊びでじっくり遊ぶ中で光の反射に気付いて光に遊びを発展させている様子が見られた。また、マグビルド自体を覗き込んで風景の色の変化を楽しむ子もいたため、子どもの気付いた「きれいだね」という感覚を大事に、他の光を用いた活動でも興味の発展をさせていく。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1405
施設名	駒井町みんなの家
施設所在地	狛江市駒井町3-36-1
法人名	社会福祉法人純生喜狛会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

光 食用色素が水に混ざっていく様子を観察する（4・5歳児クラス）

<テーマの設定理由>

・これまでの「光」をテーマにした活動から、「光」というものに関する興味関心が高まってきた。 ・様々な色のマグネットブロックを通した光の変化を楽しむ様子が見られたため、ライトテーブルを導入して様々な色の変化や様々な素材を用いて変化を楽しめるように活動に取り入れた

2. 活動スケジュール

令和7年2月25日～2月28日 ①色水の変化の変化

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)	
・ライトテーブル	6台
・食用色素（10色セット）	1箱
・水をいれたアクリルケース(水槽)	6箱

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

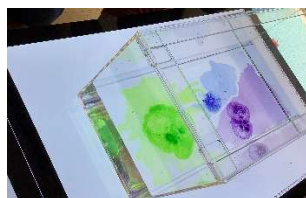
保育者が水を入れた透明なアクリルケースの中に、子どもたちが食用色素を落とす。液体が落ちる様子や水面に広がる様子がじっくりと観察できるように1つのライトテーブルに2～3人の少人数で活動を行う。色の選定は子どもたちが行う。液体が水の中に広がっていく様子や、他の色と混ざりいあって行く様子を眺めたり、手でかき混ぜたりして活動を行った。

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

・保育者がアクリルケースの中に、食用色素を垂らすと同時に、「わあ！」と思わず声をあげる子どもたち。「僕もやってみたい」と言い目を輝かせていた。

・液体を落としてから少し時間が経過すると、色が混ざり合ってきたことに気付いた子どもたちは「3つの色がもうすぐ1つになるよ！」と嬉しそうに保育者に伝える姿があった。

・青色の色素を落とした子は、「海みたいだね」と隣にいた友だちに話し、「魚がおよいでそう！」などとどんどんイメージを広げて楽しむ姿があった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・今回の活動を終えて、「またやりたい」という声が多く聞かれたため、夏の色水遊びで、色水に太陽の光を当てて同じような活動に取り組んでみたい。

・水の量や色素の量で、色の見え方や色の広がり方にも違いがあることが分かったので、アクリルケースの大きさや色素の量を変えながら、さらに遊びを発展させていき、子どもたちの気づきを深めていきたい。

・子どもたちの声を聞き、自由な気づきを見守ると、大人にはない新たな発見があり子どもの声を聞くことの大切さを改めて感じた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1405
施設名	駒井町みんなの家
施設所在地	狛江市駒井町3-36-1
法人名	社会福祉法人純生喜狛会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

光 ライトテーブルの上でスライム遊びをすることで光を感じる（3歳児クラス）
--

<テーマの設定理由>

・これまでの「光」をテーマにした活動から、「光」というものに関する興味関心が高まってきた。 ・様々な色のマグネットブロックを通した光の変化を楽しむ様子が見られたため、ライトテーブルを導入して様々な色の変化や様々な素材を用いて変化を楽しめるように活動に取り入れた。
--

2. 活動スケジュール

令和7年2月25日～2月28日 ②光るスライムを楽しむ

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

- ・ライトテーブル 6台
- ・スライム 12個（色違い）

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

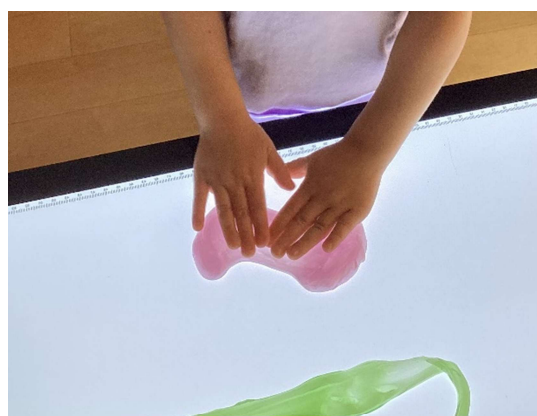
12色のスライムを用意し、子どもたちが好きな色を選択する。じっくりと観察できるように1つのライトテーブルを一人で使用できるようにして活動を行う。普段のスライム遊びとは違い、スライムを薄く広げたら光が強く見えたり、スライムで模様を作って映すなどライトテーブルならではの楽しみ方を見つける。

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・自ら好きな色のスライムを手にとり、ライトテーブルの上に伸ばしてみる。
- ・「ぐにゃぐにゃスライム、光ってる！」
「なに作ろう？」とそれぞれ気持ちを言葉にしながら遊び始める。



- ・見て、触って、じっくりとスライム遊びを楽しむ姿があった。スライムを薄く延ばすと光がよく当たる様子を保育者が見せると、「きれい～」 「やってみよう」と真似して薄く延ばす様子が見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・積極的に遊ぶ子を見て遊びだしたり、保育者と一緒に触れることで安心して少しずつ興味を示していったりと、一人ひとり違った形でライトテーブルの上のスライム遊びを楽しむことができていた。
- ・スライムなどの光を通しやすい素材は、光を当てた時の変化を感じやすい。寒天ゼリーなどでも代用し、更に遊びを発展させていく。